

大分県における飼料用米品種の選定と栽培法の確立

第2報 「ホシアオバ」栽培法の確立

○菊屋良幸・江川寛子・近乗偉夫・清水康弘¹⁾・安井利昭²⁾・長谷川航³⁾

(大分農林水産研指水田・¹⁾大分県研究普及課・²⁾大分県南部振興局・³⁾大分県集落・水田対策室)

【目的】

前報では、大分県における飼料用米として、高標高地・平坦地で作付可能で収量性に優れた品種「ホシアオバ」が奨励しうる品種であることを報告した。本報では有望品種「ホシアオバ」の作期、栽植密度、施肥量を検討したので報告する。

【材料および方法】

試験は09年は平坦地(当グループ内圃場・宇佐市、標高8m)および高標高地(旧久住試験地内圃場・竹田市久住町、標高544m)で、10～11年は平坦地で実施した。

1) 作期比較

09年平坦地で、早期(4/24)、極早植(5/29)、早植(6/11)、標準植(6/26)、遅植(7/7)の5作期を設け、「ホシアオバ」と「ヒノヒカリ」の生育および収量を比較した。

2) 栽植密度

09年高標高地及び10～11年平坦地で、73株/坪を指標とし、60, 50, 40株/坪の4水準を設け、生育、収量およびタンパク質含有率を比較した。

3) 施肥時期・施肥量

09年高標高地で、追肥(1回)の施用時期を分げつ肥～晩期穂肥まで4水準設け、生育、収量およびタンパク質含有率について慣行分施(基肥-穂肥-晩期穂肥)と比較した。また、10～11年平坦地で晩期穂肥の施用量に0, 4, 6kg/10aの3水準を設け、生育、収量およびタンパク質含有率を比較した。

【結果および考察】

1) 作期比較(表1)

「ホシアオバ」の出穂期は早期では「ヒノヒカリ」より8日早かったが、移植期が遅くなるにつれてその差は縮まり、遅植では「ヒノヒカリ」より3日遅かった。成熟期にも同様の傾向があり、遅植の「ホシアオバ」の成熟期は「ヒノヒカリ」より29日遅かった。「ヒノヒカリ」の収量は作期を通してほぼ一定であったが、「ホシアオバ」では作期が遅くなるにつれて収量が低下する傾向がみられた。

2) 栽植密度(表2)

平坦地では40株/坪でも指標と同等の収量が得られたが、成熟期が遅れる傾向がみられた。高標高地では栽植密度が疎になるにつれて収量が低下する傾向がみられた。また、73株/坪では若干倒伏が発生した(データ略)。

3) 施肥時期・施肥量(表3)

収量向上のためには穂肥時期以降の施肥が効果的であり、タンパク質含有率の向上には晩期穂肥が最も効果的であった。分施体系においても、晩期穂肥の施用により、タンパク質含有率が大きく向上した。

以上のことから、大分県で飼料用米としてホシアオバを栽培する場合、移植期は平坦地では6月下旬までとし、晩期穂肥の施用を徹底すること、栽植密度は坪50株とすることで高品質安定生産が可能になると考えられた。

表1 移植期別にみたヒノヒカリとホシアオバの成熟期の比較

品種名	作期名	移植日	出穂期	成熟期	精籼重 kg/10a
		月/日	月/日	月/日	
ヒノヒカリ	早期	4/24	8/4	9/11	758
	極早植	5/29	8/20	9/29	746
	早植	6/11	8/23	10/4	731
	標準植	6/26	8/30	10/13	627
	遅植	7/7	9/4	10/20	753
ホシアオバ	早期	4/24	7/27	9/7	1,010
	極早植	5/29	8/14	9/28	1,048
	早植	6/11	8/18	10/4	899
	標準植	6/26	8/29	10/18	830
	遅植	7/7	9/7	11/18	895

注) 精籼重は水分含量14.5%換算した値を表す。

表2 ホシアオバ栽植密度試験の生育および収量

栽植密度	出穂期 月/日	成熟期 月/日	倒伏程度		精籼重 kg/10a	玄米 タンパク質 含有率%
			成熟期 0-5	+7日 0-5		
40株/坪	8/23	10/26	0.2	0.2	964 (103)	7.1
50株/坪	8/23	10/24	0.2	0.2	991 (106)	7.0
60株/坪	8/23	10/22	0.7	0.7	936 (100)	7.1
73株/坪	8/22	10/20	0.5	0.5	937 (100)	7.0

注1) 10～11年平坦地試験の平均値を表す。

2) 倒伏程度は無・微・少・中・多・甚の6段階を0～5で表す。

3) 精籼重、玄米タンパク質含有率は水分14.5%換算した値を表す。

表3 ホシアオバの施肥時期および施肥量別にみた生育、収量および品質

試験地	試験区名	追肥 時期	窒素 施肥量 Nkg/10a	稈長		穂数 本/m ²	精籼重 kg/10a	玄米 タンパク質 含有率%
				cm	cm			
				cm	cm			
高標高地	分げつ肥	65	6-5-0-0-0	95	19.1	320	931 (88)	6.5
	幼穂形成期肥	33	6-0-5-0-0	99	20.7	329	996 (94)	7.1
	穂肥	24	6-0-0-5-0	96	20.9	326	1,017 (96)	7.0
	晩期穂肥	15	6-0-0-0-5	94	20.1	318	1,026 (97)	7.2
	慣行分施(指標)	-	6-0-0-3-2	98	20.0	324	1,063 (100)	7.4
平坦地	晩穂-無	-	6-0-0-3-0	105	22.3	228	929 (97)	6.5
	晩穂-慣行(指標)	-	6-0-0-3-4	104	22.0	230	961 (100)	7.2
	晩穂-増施	-	6-0-0-3-6	105	22.3	232	976 (101)	7.4

注1) 追肥時期は各追肥施用日の出穂前日数を表す。

2) 精籼重、玄米タンパク質含有率は水分含量14.5%換算した値を表す。